

大太鼓の響きと郷土芸能



▲勇壮な獅子踊り

「大太鼓祭り」として知られている八幡宮綴子神社（武内尊英宮司）の例大祭が7月14日（宵宮）、15日（例大祭）の2日間、同地区で行われ、直径3メートルを超える大太鼓や、獅子踊りなどの郷土芸能が神社に奉納されました。

例大祭は、今から約750年前の弘長2年（西暦1262年）ころから始まったと伝えられ、雨乞いの神事として天に届くような大きな音を轟かせる大きな太鼓が作られました。奉納行事は、源氏と平家藩政時代以降は徳川方と豊臣方に別れた上町・下町両集落が合同で行っていましたが、今では一年交代で奉納します。

今年の当番町は下町。下町の大太鼓は最も大きなものが直径3・71mで昭和61年に製作され、平成元年に世界一大きな和太鼓としてギネスブックで認定されました。2番目に大きなものでも3・18mあります。また、奉納は出陣行列の形式で行われており、下町は豊臣方で奉納を行いました。



▲奴踊りの入場



例大祭の15日は、取り仕切り役の太夫と「ヤツパリ」といわれる棒術の使い手先頭に100人あまりの出陣行列が綴子基幹集落センターを出発。3張りの大太鼓を打ち鳴らしながら綴子神社に向かい、地元の人たちや観光客が見守る境内で奉納行事を行いました。沿道では、市内外から訪れた観光客などが太鼓を背景に記念撮影をするなど、盛んにシャッターを切っていました。

境内では、出陣一行を取り仕切る太夫の口上で始まり、勇壮な獅子踊りが奉納行事の口火を切りました。下町の獅子踊りは、親子仲睦まじい姿の所作を表現しているといわれ、10分ほどの間境内を激しく動き回ります。子どもたちによる大人顔負けの獅子踊りに続いて大人の躍動感豊かな演技が披露され、見物客らが大きな拍手を送っていました。

続いて、艶やかな衣装で入場したこども会によるかわいらしい奴踊りや若勢会による軽快な所作の奴踊り、棒使いなどが披露され、境内に集まった大勢の見物客が拍手を送りながら伝統芸能を堪能しました。



▲作占い・湯立ての神事
今年は「平年作、おくては豊作」



▲子どもたちによる奴踊り



▲出陣行列が境内に入場

元気を届けよう光と音 第20回北秋田市米代川花火大会

第20回北秋田市米代川花火大会が7月9日、米代川河川公園を会場に開催され、県内で早い時期に開催される花火大会を見ようと大勢の見物客が訪れ、光と音のショーを楽しみました。会場には明るいうちから家族連れなどが続々と訪れ、観覧席となった河川公園のグラウンドや堤防の周囲も開会セレモニーの始まった午後7時過ぎには見物客で埋まりました。

津谷市長は「東日本大震災で開催が危ぶまれましたが、皆さんの温かいご協力とご支援でこの大会を開催することができました。皆さんが集まり元気を出していただくことにより被災地にも元気を届けることができると思います。今日は皆さんで楽しんでください」などと歓迎のあいさつ。

このあと、華やかなスターメインなどが次々と打ち上げられ、漆黒の夜空を華やかに彩り、会場からは拍手と歓声が沸きおこりました。

